

8

■オオヒシクイが越冬する県内最大の潟湖

福島潟 (豊栄市)

■環境：湖沼
 ■対象：家族
 ■期間：通年
 とくに11月
 ～3月上旬

国内でも屈指の水鳥の生息地。オオヒシクイの最大の越冬地であり、ガン・カモ類、ワシ・タカ類も多く、渡り鳥の中継地としても有名である。

〈環境整備が進むオオヒシクイ越冬地〉

福島潟はかつては600haの面積を有する県内最大の潟湖であったが、あいつぐ干拓事業によって水面と低湿地200haを残すだけになった。陸地化が進んでいるが、それでも初夏の繁殖期、秋の渡り、とりわけ冬のガン・カモ、ハクチョウ類のシーズンには探鳥が十分楽しめる。

豊栄市は国の指定を受け、97年8月オープンをめざし潟自然生態園として23haを整備している。内容は①自然生態学習園、②潟文化の森、③水辺の休憩広場である。そのうち探鳥が目的なら②の中にある「水の駅ビュー福島潟」が目玉である。「ビュー福島潟」の6階や屋上からは360度潟の様子が一



福島潟を飛び立つヒシクイ

望できる。また映像展示室のモニターからリアルタイムの動植物の様子が映し出される。鳥の情報も含め格好の観察ポイントといえる。

〈朝焼けの空に3000羽のヒシクイ飛ぶ〉

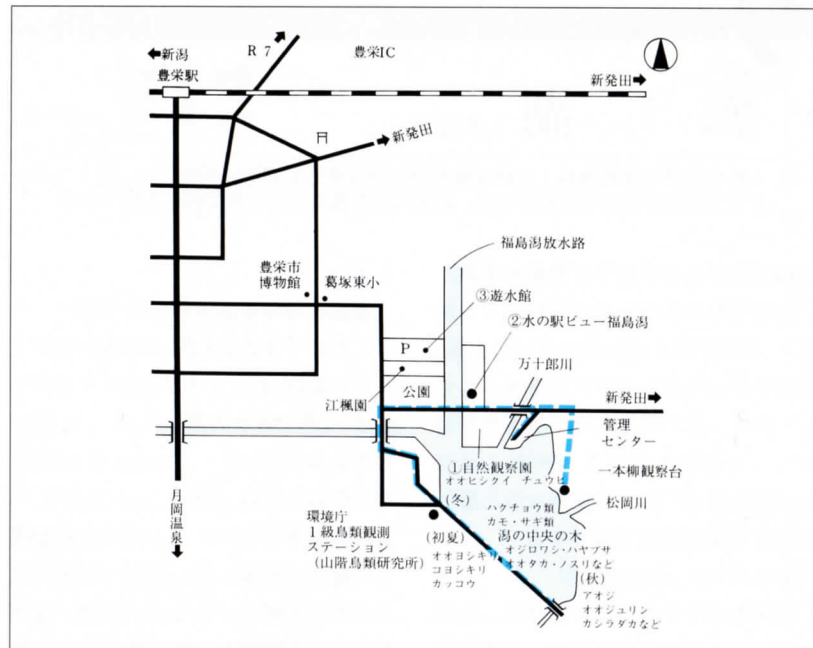
福島潟に一度訪れた人なら、必ず思いつく光景は、3000羽を超えるオオヒシクイの雁行だろう。カギになったり、サオになったり次々と乱舞する姿は見事だ。

オオヒシクイなどは警戒心が強いので「ビュー福島潟」か生態園の端にある環境庁の管理センター（観察舎）が観察のよいポイントになろう。

また初夏に繁殖期を迎えるオオヨシキリ、コヨシキリ、カッコウのほかオオジュリンのさえずりも聞くことができる。

〈オジロワシ、チュウヒ舞う冬の原野〉

「ビュー福島潟」の対岸に福島潟野鳥の会と県内の野鳥の会有志が建てた、通称「一本柳観察台」がある。ここからは山を背に潟を見ることができ、ガン・カモ類の他にオジロワシやノスリ、低空を飛ぶチュウヒさらにオオワシや



ハヤブサ、チョウゲンボウにも会えることがある。

〈珍鳥が姿をみせる秋の渡り〉

福島潟にはこれまでに221種の鳥類が記録されている。これには環境庁の委託調査として山階鳥類研究所が行っている9～11月の標識調査の記録が多く含まれている。5000羽を超えるアオジ、オオジュリン、カシラダカなどのホオジロ類に交じりオオモズ、ノゴマ、シマアオジ、ムネアカタヒバリなど珍しい鳥の記録もある。福島潟の広い原野は人を寄せつけず、鳥の姿を見つけることは難しい。しかし潟の周囲の堤

防や桜並木で思わぬ鳥との出会いがある。

(宮崎芳春、藤田英忠)

メモ

交通 JR豊栄駅下車、タクシーで10分。車で新潟市から国道7号線で約20分、競馬場ICで降りる。
☐ 「潟文化の森」「水辺の休憩広場」に駐車場あり(97年8月より)。管理センターには駐車スペースは少ない。
探鳥会 「福島潟野鳥の会」が行っている。福島潟はオニバスの北限の自生地で350種の水生、湿生植物が自生する。「21世紀に残したい日本の自然百選」の一つ。問い合わせ：豊栄市文化振興室ヒシクイ係
 ☎025-387-1491